

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 西川 みゆき

論 文 題 目

Effect of nursing intervention program using abdominal palpation of Leopold's
Maneuvers on maternal-fetal attachment

(レオポルド触診法を用いた腹部触診による看護介入が母児愛着に与える効果について)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 浅野 みどり

名古屋大学教授 池松 裕子

名古屋大学教授 榊原 久孝

論文審査の結果の要旨

近年児童虐待相談件数が年々増加傾向にある中で、母子関係のスタートである妊娠期から親意識を高め、親役割の獲得と適応に向けた支援の重要性が言われている。しかし、最近の研究では、胎動を知覚する看護介入法では母児愛着に効果がなかったと報告されるなど、国際的にも母児愛着を高める効果的な看護介入法については定まっていない現状にある。

本研究は、Leopold 触診法を用いて、妊婦に腹壁上から胎児の背部や臀部を触知し実感させる看護介入法を考案し、母児愛着促進への効果を検討したものである。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 腹部触診法による看護介入を行った結果、介入群は対照群より母児愛着、胎児位置認知、胎児に対する話しかけ頻度が有意に高くなった。また、母児愛着および胎児に対する話しかけ頻度は、胎児位置認知の促進と関連があることが示された。

2. Leopold 触診法を用いた看護介入は、腹壁上から胎児の存在や胎動の感知を促し、それによって母児愛着が促進され、また児とのコミュニケーションがより高まることが示唆された。

3. 妊婦の母児愛着の促進には、腹壁上から胎児の位置や胎動を触知するような介入方法が、より効果的ではないかと推測された。

本研究は、Leopold 触診法を用いた看護介入法が母児愛着促進に効果的であることを示し、看護実践に示唆を与える意義ある研究といえる。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。